

第54号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

お寺が栄えることは檀信徒の喜びであり

揺れる「赤ちゃんポスト」

—生命は大切に—

熊本市の慈恵病院で「赤ちゃんポスト」(こうのとり)の運用が始まりました。全国で新生児の遺棄事件が多発するなか、乳児が産み捨てられ死亡してしまうのを防ぐため「緊急非難場所」として病院が設置したものです。病院の外壁につけられた扉を開くと保育器があり、赤ちゃんが置かれると、二十四時間対応職員が待機し保護するものだそうです。乳児の命を守るのか、子捨てを助長するのかが等々、その是非が議論されていますが、早速運用の始まった3時間後、三歳ぐらいの男児が捨てられました。慈恵病院が、「赤ちゃんポスト」の運営に乗り出したのは、同病院がキリスト教・カトリック系の病院であることと無関係ではありません。カトリックでは墮胎(中絶)は罪とされ禁止されています。避妊についても原則禁じておりコンドームの使用も認められていません。但し、オギノ式によ

る避妊は認められています。婚前交渉や結婚後の浮気も悪とされてきたので、諸事情で止むを得ず出来た乳児の命を救うため設置を進めたのでしょうか。仏教でも、淫らなセックスは禁じています。また墮胎も不殺生戒に触れ禁止されています。熊本に三歳男児が捨てられたとき、「赤ちゃんポスト」の先進国ドイツでも、一歳八ヶ月の女児が放置されたそうで、売春の「望まない妊娠」の尻拭いをしていくとの強い批判の声が上がっています。わが国では、赤ちゃんの置き去りは年間二百件近く起きていくといわれ、嬰兒殺し(満一歳未満の子の殺害)の検挙数も年間二十件ほどあります。大阪でも、大型スクーターの座席下のヘルメット入れに一歳の男児を放置殺害し、能勢の山中に遺棄した事件も報道されました。親の身勝手から行われる乳幼児虐待や置きささり、殺害は論外ですが、養育困難のため止むに止まれず決断される場合には、

「赤ちゃんポスト」はせめても救いの技になりうるのではないうのでしょうか。生命を大切にしない宗教はありませぬ。赤ちゃんは親の所有物ではないのです。赤ちゃんは授かりのものから、キリスト教では神さまから、仏教では仏さまから授かったものなのだと思います。授かった以上は俺のものだと思いがちですが、お預かりしているのです。自分のものではないのです。赤ちゃんだけでなく、私たちの身体や生命もすべて、神さま・仏さまからお預かりしているのです。お預かりしているじゃないのです。大切にしなければならぬのです。それが、仏教の意



九島院人物列伝④

福原丹安・承明と九島院

朝鮮通信使と交流

当院住職墓地の入口に、福原丹安・福承明・福尚徳・福母益田の四基の墓碑が並んで建っています。

福原丹安は宝永六年（一七〇九）高槻で生まれ、本姓森本氏、名は剛、字は百練。幼い頃に両親を亡くし大坂に来て苦学、医学を学び福原丹治の養子となり丹安と号しました。

患者の危急を救うのが天職と信じ、遠近昼夜の別なく乞われれば駆けつけ治療にあたったので地元の人々に慕われました。生来音楽好きで、暇さえあれば箏（しょう）や琵琶を弾

（福承明之墓）



お寺が栄えることは檀信徒の喜びであり

き、しかも手先が器用で演奏する楽器はことごとく手製でした。そのうち、楽器の命を救うのも医者の仕事だと言いだし、壊れた楽器や大昔の楽器を集めるのを楽しみにしていました。詩文にも長じ、漢詩の混沌社初会から加盟。明和九年（一七七二）三月、六十三歳で没しました。福母益田氏は丹安の妻で、諱を秀（ひで）といい、延享二年（一七四九）五月三十六歳で亡くなりました。福承明は丹安の息子。元文三年（一七三八）大坂生まれ名は尚修、映山と号しました幼時より多方面に才能があり父から医学を授かりました。読書を好み学識豊富、詩才に長じ書画・篆刻・楽器などいずれも専門家の腕前でした。朝鮮通信使の成龍淵が大坂を訪ねた時に同席し、肝胆相照らし、龍淵から水雲居士の雅号を貰いました。父の丹安と

共に明和二年（一七六五）九月十六日の混沌社設立メンバーに加わりましたが、明和五年（一七六八）一月に三十四歳で早世しました。詩友の頼春水（頼山陽の父）は『在津紀事』に「福原承明早ク死ス諸友九島院二会シ詩ヲ賦シテ之ヲ弔ウ。」と記しています。福尚徳は承明の息子で、父承明が死んだ直後生まれまれました。祖父の丹安が苦勞して育てましたが、彼もまた十四歳で他界しました。四基の墓碑は空襲にあり、墓碑銘文が剥離した状態ですが、『大阪訪碑録』の書物に記録されており、いづれも混沌社主の片山北海が撰しています。江戸時代に十二回やつてきた朝鮮使節団は沿道各地で、民衆と交流を持ちました。瀬戸内海を東行。九条川口に上陸し北御堂を宿舎としました宿舎には、学問や風雅の道を志す人々がおしかけましたその一人が福承明で、松島の竹林寺には当地で病没した通信使の小童・金漢重（キンハンジュン）のお墓があり、松島公園には「九条島と朝鮮通信使」の石碑が建てられています。昔は日本と朝鮮は善隣友好関係にあったのです。

永代供養墓

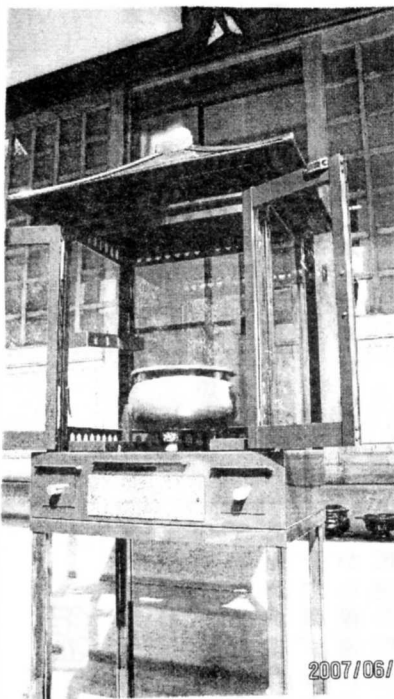
（大亀地藏尊）

お墓を建ててもいづれは無縁になるから、とのお考えの方の相談を受けてできた永代供養合祀墓です。

- 継承者がいなくても安心
- 無縁になる心配がない
- お寺が続くかぎり供養される
- 永代位牌が位牌堂で祀られる
- 彼岸・お盆には大勢の僧侶で回向される
- ご遺骨は大亀地藏尊の蓮台の下で土に帰るよう埋葬
- 永代供養だけの方も
- 生前に依頼もできる
- 管理料は不要
- 永代志納金一霊三十万円
- 永代位牌は二種類
- 宗旨・宗派は問いません
- お墓を整理して合祀される方もおられます

◎新規境内墓地使用者も募集しています。お寺までお問い合わせ下さい。





2007/06/1

○本堂前献灯台新調  
 本堂前の献灯台を新調しました。今までのものは、小納家が住職になって初めてのお檀家の吉川マサさんより喜捨された浄財で購入したものでした。あれから十七年、お寺にお参りの方々に愛用されてきました。お寺の参拝には、まづ御本尊のおられる本堂に手を合わせ礼拝するのが大事ですが、この頃はその習慣も当たり前となり喜んでいきます。古い献灯台は、春彼岸に開眼法要しました。お地藏さま

○本堂前献灯台新調



○山門前駒札新調  
 山門前の駒札、宗統禅会の告示を墨書していた木札が朽ちてきましたので、この度アルミ製の駒形立札を新調しました。  
 坐禅会は、指導頂いておりました奥田仁芳老師（大本山塔頭萬松院院主）が遷化された会中ですが、お寺の法要の告示や教化布教にあてたいと考えています。

○山門前駒札新調

もお線香があげやすくなり、したので、是非お参り下さい

○お盆棚経参り  
 まもなくお盆の棚経まいりの時期がやってまいります。毎月お参りしてまいります。外にお盆のみお参りするお家（近畿六府県にまたがるお家を八月二日より十五日の二週間でお参りします。副住職と二名で分担しますが、交通事情もありご迷惑をおかけするお願ひも存じますが、宜しくお願ひします。

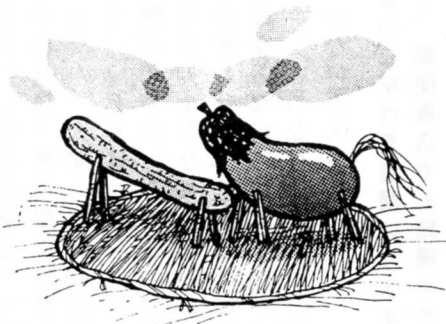
○お盆棚経参り

第13回修養回ご案内

大仏巡拝の4回目として、小野市の浄土寺に快慶作の阿弥陀三尊（国宝）を参詣します。5.3mの阿弥陀仏に、脇仏の3.7mの観音・勢至菩薩、堂を圧し、大仏様の浄土堂の屋根に届く御姿は言葉も失います。11回目に訪ねた阿波大仏の兄弟版のもので、こちらは創建当時のままで残っています。また、世界遺産の姫路城下の黄檗宗「雲松寺」を拝塔し方丈様よりのご法話も予定しております。是非、こぞってお誘い合わせの上、ご参加下さい！

募集要項

- 日 時 11月11日（日）
  - 集合場所 8時30分集合出発
  - 旅 程 九島院 — （姫路）雲松寺 — 食事 — （小野）浄土寺 — 九島院（6時解散予定）
  - 会 費 老万円
  - 募集人員 40名（満員になり次第締め切り）
- ※先着順です。お申し込みは、別紙申し込み用紙に記入し、当院（06-6583-2725）まで出発日の半月前に確認書ご郵送します。



「開山龍溪禅師の喜び、誰よりも」本尊の喜びです！

奉納抄

編集後記

○本堂前献灯・香炉台などの奉納

(本年五月廿二日)

木村仁志様より、「献灯・香炉台」と山門前に「駒札」が奉納されました。風雨にも強いガラス扉つきのものです。

○金壹拾万円喜捨(本年三月廿八日)

某氏よりご喜捨があり、寺暦案内板の不足分にあてさせて頂きました。

●千の風になって

「千の風になって」という歌があります。「私のお墓の前で泣かないでください」という歌いだしの歌詞にドキッとしました。

昨年大晦日の紅白歌合戦でテノール歌手の秋山雅史(39)が歌い、全国を感動の渦に巻き込みました。残念ながら、大晦日は例年「坐禅と除夜の鐘」で参詣者と過ごします。「紅白」は見えていません。

檀家の親しいお祖父さんが亡くなられ、中陰回向の折に、祭壇に供えられた奉書紙に墨書された歌詞を読み初めて知りました。老人会の友達が供えたこと、相田みつお風に書かれた歌詞を読み進むうちに、亡くなれ語り合えない寂しさも消え、故人が風になり大きな空を吹きわたり、「いつでもどこにでもいて、見守っているよ」と語りかけてくるようでした。

この作者不詳の編の短い詩は、英国BBCが放送して大反響をよびました。アイルランド共和国軍のテロで亡くなった24歳の青年が「ぼくが死んだとき開封してください」と両親に託していたという詩だそうです。米国でも、マリリン・モンローの追悼会や9・11の同時多発テロで犠牲になった父親を偲んで11歳の少女が朗読し、わが国でも尼崎のJR列車脱線事故犠牲者追悼式典でも歌われた。名を心

の中で呼びかけます。何度も何度も叫びます。「戻ってきてほしい。元気な姿をもう一度、見せてほしい！」でも、そんなことはかなえられません。喪ったものは二度と再びかえらないのです。この歌は、「悲しまないで、私は千の風になってあなたを見守るから」と安心感を、そして「私ができなかった分まで精一杯生きてほしい」と亡くした人が死者に勇気さえもいただけるのです。

でも『眠ってなんかいらないお墓なの』に、お墓参りをすれば気持ちがいいのはなぜでしょうか。



▼光市母子殺人事件は、最高裁から差し戻され、死刑が相当かと審議されています。  
▼犯行当時十八歳の未成年の殺人事件に死刑が相当かと議論をよび、死刑廃止を主張する大弁護士団が組織され、真相から程遠い弁論がなされています。  
▼死刑が刑法に規定されているのは、犯罪抑止の観点で、近代刑法には復讐は認められません。

▼「目には目を」「歯には歯を」で有名なハムラビ法典は、無制限に復讐を肯定していません。人間の復讐心は際限がないので、「目を傷つけられたら目以上の復讐はだめだ」とするのです。  
▼死刑は犯罪の抑止となりえない以上加害者は被害者の受けた苦痛程度は受容しなければならぬのではないかと。死刑がむつかしいのなら、終身刑の導入が必要ではないかと思う。

墓地維持費のご納付をお願いします。墓参の折り、郵便振込でも結構です。

水灯会・うらぼん施餓鬼

8月19日(日)  
午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません  
ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

ご案内

「開山龍溪禪師の喜び、誰よりも」本尊の喜びです!